

みやぎ
地域防災の
アイデア集

09

人材育成

1 防災リーダーの育成

事例09-1-1 【栗原市】宮城県防災指導員が活躍する自主防災活動

事例09-1-2 【仙台市】市町村による地域防災リーダー養成講習の積極的な受講

2 地域人材の登用

事例09-2-1 【栗原市】看護師等、有資格者の調査・登用

事例09-2-2 【亘理町】地域人材の育成

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

09 1 防災リーダーの育成

- 自主防災活動を主体的に担う防災リーダーは、多様な知識や技術を身につける必要があり、行政による育成事業等への推薦やその後の活躍の場づくりを進める必要があります。
- 地域の防災活動に多様な視点を反映するために、子どもや女性など、従来の防災リーダーとは異なる属性の育成にも取り組むことが重要です。

進め方とポイント

市町村、県による防災リーダー育成事業への参加・推薦

- 自主防災組織の活動を担う人材、とりわけリーダーは、自らが防災に関する基本的な知識や技術を身につける必要があります。また、日頃から住民の防災意識の向上に努める必要があります。
- 自主防災組織の主要メンバーや、地域の防災活動に熱心に参加してくれる方など、今後の防災活動の担い手となりうる人材を育成するため、宮城県防災指導員の認定や防災士の資格取得を積極的に促します。
- 行政等による防災人材育成の機会を活用し、防災以外の地域活動に参加している人たちを巻き込んでいくことも効果的です。

学校と連携した防災教育と子ども防災リーダーの育成

- 学校と連携した防災教育や、防災キャンプ、防災塾等、子どもを対象とした取組を積極的に展開し、地域の「子ども防災リーダー」を育成しましょう。
- 育成した「子ども防災リーダー」には、訓練等行事やその他の防災活動に積極的に参画してもらえよう、役割を検討しておきます。

女性防災リーダーの育成

- 自主防災活動に女性の視点を活かすため、女性の参画を促進し、リーダーの中に積極的に女性を含めることが極めて重要です。
- 自主防災組織の特定の活動(例えば、避難所における食事づくり等)が片方の性に偏るなど、性別や年齢等により役割を固定化することがないようにすることも必要です。



事例 09 1 1 宮城県防災指導員が活躍する自主防災活動

栗原市 高清水地区九区自治会自主防災会

■ 高清水地区九区自治会自主防災組織は、防災人材の育成を活動の柱に据え、宮城県防災指導員への認定を積極的に進めるとともに、自主防災活動の企画と運営に主体的に取り組んでいる。

進め方とポイント

準備

- 地域の防災リーダー（宮城県防災指導員、市町村が独自に育成している防災リーダー、防災士など）を把握する。
- 市町村の関連事業を調べる。

宮城県防災指導員の積極的な受講

- 自主防災組織の役員に宮城県防災指導員の養成講習を積極的に受講させ、これまで7名が認定を受けた。

宮城県防災指導員の概要

宮城県防災指導員は、県、県民、事業者及び市町村が一体となって災害対策を推進することを目的に平成21年4月に制定された、「震災対策推進条例」に基づく、知事が認定する地域防災リーダーである。

認定を受けるためには、原則として、県が実施する養成講習を受講し修了する必要がある。宮城県防災指導員には、養成講習で習得した知識や技能を発揮し、地域や事業所等において防災・減災対策の推進役となることが期待されている。

「宮城県防災指導員認定制度について」より引用

宮城県防災指導員の活躍

- 高清水九区の宮城県防災指導員は、平常時から様々な自主防災活動を推進しており、防災訓練でも中心的な役割を担った。
 - ▶ 防災講話:東日本大震災の経験や、地震についての知識・備えなどを解説
 - ▶ 非常持出袋の指導:各世帯で備えておきたい必須備蓄品、便利グッズなどをわかりやすく解説
 - ▶ 搬送訓練:毛布を使った簡易担架作成や負傷者の搬送方法を防災指導員が実演



宮城県防災指導員が活躍する防災訓練の様子

この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 地域防災人材を育成するために、宮城県防災指導員制度を有効に活用している。
- 宮城県防災指導員が活躍できる環境を行政区長や自治会長らが全面的にサポートしている。

事例 09 1 2 市町村による地域防災リーダー養成講習の積極的な受講

仙台市 グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合

■ グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合は、仙台市が主催する仙台市地域防災リーダーの養成研修会に理事長を派遣するなど、地域に根ざした自主防災活動の推進を図っている。

進め方とポイント

準備

- 地域の防災リーダー（宮城県防災指導員、仙台市地域防災リーダー、防災士など）を把握する。

仙台市地域防災リーダー養成研修の積極的な受講

- 仙台市の地域防災活動において、仙台市地域防災リーダーは重要な役割を担っており、マンション防災の推進や近隣地域との連携強化を進めるに当たっても、仙台市地域防災リーダーに認定されるメリットは大きい。

仙台市地域防災リーダー（愛称SBL）の概要

仙台市地域防災リーダー（SBL）には、町内会長などを補佐しながら、平常時には地域特性を考慮した防災計画づくりや効果的な訓練の企画運営、災害時には地域住民の避難誘導や救出・救護活動の指揮を行うなどの役割が期待されている。

【特徴】

- ① 災害発生時だけでなく、平常時から地域に根差していること。
- ② 当該地域の住民であれば、必ずしも町内会長でなくてもよい。
- ③ 得た知識と技能を受講者が居住する地域に還元すること。

【募集の形態】

町内会からの推薦応募と自由応募とがある。また、受講後は、受講者が居住する地域の町内会と学校、他の地域防災リーダーに個人情報（住所・氏名・電話番号・性別）を提供することを前提としており、たとえ自由応募であっても、学校や地域にとって顔の見える地域防災リーダーとなることを重要視している。

〔仙台市地域防災リーダー（SBL）とは〕より引用

仙台市地域防災リーダーとしての顔の見える地域防災活動

- グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合は、町内会には加盟していないが、長町小学校避難所運営委員会に参画している（事例1-4-2参照）。
- 仙台市地域防災リーダーの認定を受けることにより、長町小学校避難所運営委員会に参画している他の地域防災リーダーとの連携につながった。
- このほか、地元の様々な防災活動にも参画している（仙台市太白区中央市民センター主催「わがまち防災・減災実践講座」）。



仙台市地域防災リーダーとしての地元地域活動の様子

この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 仙台市地域防災リーダーの知識と技能、ネットワークを存分に活用し、地域連携の推進に積極的に取り組んでおり、マンション防災のお手本(ロールモデル)の一つとなっている。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

09 2 地域人材の登用

- 地域には、看護師や元行政職員など、災害時に役立つ様々な知識や経験、技術を持つ住民がいます。まずは、誰がどのようなスキルをもっているかをアンケート調査等で把握し、リスト等にまとめましょう。
- 平常時から地域の人材を自主防災組織の活動に巻き込みながら、防災活動や災害時対応の担い手として育成すると、自主防災組織の他メンバーの刺激にもなり、能力向上にもつながります。

進め方とポイント

看護師、薬剤師等の専門人材の組織化やアドバイザー協力

- 看護師、薬剤師、介護福祉士等の保健・医療・福祉の専門職や経験者といった専門的な知識・技能を持つ住民については、災害時の支援活動にぜひ協力してもらいたいものです。
- 日頃から自主防災組織の活動に協力してもらうほか、アドバイザーグループを組織化して、災害時の支援活動に協力してもらえるよう、話し合っておくのもよいでしょう。

防災活動の支援要員やコーディネーターの確保・育成

- 防災士資格を持つ住民や宮城県防災指導員等には、コーディネーターとして関係機関やNPO等と連携をとり、地域の防災活動を積極的に推進してもらいましょう。
- コーディネーターは、他団体の活動と防災意識を結びつけ、防災意識の醸成を図り、地域住民の参加を促す役割も担っています。他人の話の傾聴や雰囲気づくりが得意な住民を巻き込み、コーディネーターとして育成することも、活動の継続のために重要です。

元行政職員の活用

- 元行政職員は、様々な関係機関との調整を経験しており、防災活動のコーディネーターの有力な候補者です。

社会福祉協議会や防災リーダーなどの協力、シニアの交流と地域貢献活動、専門職OBの発掘

- 日頃ボランティアのコーディネートを行っている、社会福祉協議会や防災リーダー等の協力を働きかけましょう。
- 地域のシニア世代の交流事業や地域貢献活動も、地域人材の発掘に有効です。こういった活動の中から専門職OB等を発掘し、交流を促進し、積極的に参加してもらえるよう進めましょう。



事例 09 2 1 看護師等、有資格者の調査・登用

栗原市 高清水地区九区自治会自主防災会

- 高清水地区九区は、看護師等の有資格者に、地区防災訓練で講話を依頼するなど連携をしてきたが、避難所運営・災害対応に協力してもらえる医療経験者や有資格者をあらためて発掘し、自主防災会への参画促進に取り組んだ。

進め方とポイント

調査

- 自治会内にどんな協力者や専門人材がいるのかをアンケート調査により明らかにした。

アンケート調査票(地域人材の把握部分の抜粋)

3 災害時に「いちよう館」が避難所となった場合に、あなたの世帯で協力できる内容を○で囲んでください。(複数回答)

災害救助 避難者誘導 避難所運営 炊き出し 救護(医療資格、経験等)

井戸水の提供 発電機 電気供給可能車車両 ガスコンロ 暖房機器

その他 ()

結果

- 救護活動に貢献可能な医療の資格や経験のある人が9名いることがわかった。
- その他にも自主防災活動にとって有益な地域人材と物的資源を把握することができた。

地域人材の調査結果(抜粋)

災害救助	41	27.3%
避難誘導	45	30.0%
避難運営	12	8.0%
炊き出し	42	28.0%
救護	9	6.0%
井戸水	41	27.3%
発電機	7	4.7%
電気車両	2	1.3%
コンロ	11	7.3%
暖房機器	22	14.7%

活用

- この9名の協力を得て、自主防災会の一員として登録するとともに、地区防災訓練と一緒に活動いただけるよう実施計画を検討している。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11



元看護師による応急手当講座の様子



救護訓練の様子

この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- アンケート調査によって新たに把握できた元看護師の地域住民に、さっそく応急手当の講師をお願いすることができた。
- 地区内の避難行動要支援者を把握するため、自主防災会独自のアンケート調査を実施するに当たり、あらためて地域資源や人材に着目し、調査を進めたことで、このような活用方法への発展につながった。

事例 09 2 2 地域人材の育成

巨理町 浜吉田西区自主防災会

- 事例8-4-2では、防災に関する訓練や行事は「防災単独」で実施すると、関心や参加人数の面で課題があり、それを解決するために「防災に関することではないものの、結局は地域の防災力向上につながる」ようにする『土手の花見』型防災を紹介した。
- 「人を育てる」という地域人材の育成においても、同じようなアプローチが考えられ、浜吉田西区では、防災に限らない視点・取組により、地域人材の育成や次世代リーダーの発掘につなげている。

進め方とポイント

例:浜吉田西区サポーターの会

- 区の12名からなるチームで、普段は砂利敷き、側溝清掃、花いっぱい運動を実施しており、災害発生時には、このメンバーが区の中心的役割を担う。
- 日頃の活動が、連絡体制の強化や災害時対応の訓練にもつながっている。
- このメンバーの中から、次世代のリーダー候補を発掘することも有効な方法となる。

この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 多くのリーダーの共通の課題として、「後継者の育成」が挙げられる。優秀な人がいると、ついその方に頼ってしまい、結果的に人材育成ができていない、地域にノウハウが残らない(属人的になる)ことが少なくない。
- リーダーになる上では、後継者の育成を前提にした活動が重要であり、この事例はその解決策を探る糸口になり得る。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11